

「ホームドアの整備促進等に関する検討会」 中間とりまとめの概要

平成23年8月

1. ホームドア等の転落防止対策の優先整備駅の考え方

○視覚障害者からの要望が高い駅

- ・駅周辺の視覚障害者の関連施設やホームの状況等を勘案し、優先度や必要な対策等を検討

○駅の利用者数が多い駅

- ・利用者数1万人以上の駅で、ホームでの事故(1,253件)^{注)}の約8割が発生
- ・このうち、特に利用者数の10万人以上の駅は、一駅当たりの事故発生件数(1.82件/駅)が多い

注)平成14～21年度の間にホームから転落又はホーム上で列車と接触により発生した鉄道人身障害事故件数

2. ホームドア等の転落防止対策の進め方

利用者数1万人以上の駅

内方線付きの点状ブロック等の整備を可能な限り速やかに実施

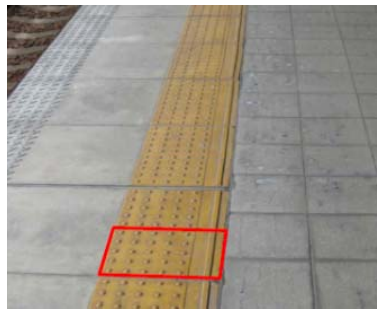
利用者数10万人以上の駅

- ホームの状況等(混雑度や形状、事故の発生状況等)を踏まえ、ホームドア又は内方線付き・JIS規格対応の点状ブロックの整備を優先して速やかに実施(点状ブロックは概ね5年で整備)
- 車両扉位置が一定である等、ホームドア設置が可能な駅は、停車時分の増加やコスト等の課題の検討を踏まえてその整備を優先。この場合、路線や区間単位による整備も検討

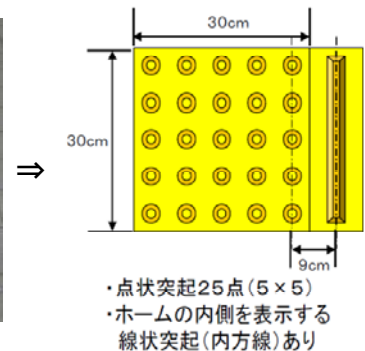
注)ホームドアの整備が困難な場合は、音声・音響・光等による列車接近警報装置や係員による人的介助等の総合的な対策を可能な限り速やかに実施し、転落防止対策の効果をより一層向上



【ホームドア】



【内方線付きJIS規格点状ブロック】



「心のバリアフリー」に関するソフト施策の一体的な推進

- 鉄道係員に対するバリアフリー教育、研修等の人的対応の充実
- 旅客による視覚障害者への声かけやマナー、旅客のホームでの安全に関する教育啓発の強化
- 駅の転落防止対策の状況等、駅に関する視覚障害者への情報提供 等

3. 転落防止対策の推進に対する支援

- 国、地方公共団体による必要な支援
- 車両扉位置の相違やコスト低減等の課題に対応可能な新たなホームドア等の研究開発の推進
- 国、地方公共団体、事業者等関係者の連携による視覚障害者の誘導案内、啓発活動等のソフト施策の推進

4. 転落防止対策に関する計画の作成・公表

- 今後の転落防止対策の進め方に関する方針、計画について、事業者が安全報告書等により公表